



岩岡 智之さん (37)

あさひ作業所のサービス管理責任者、そして竹原市障害者自立支援協議会の就労ワーキングメンバーとして活躍中。



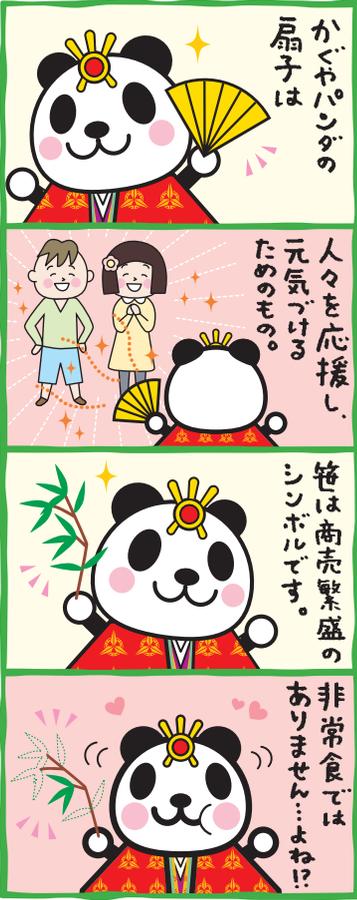
森木 聡人さん (38)

竹原地域障害者生活支援センター聖恵の管理者であり、竹原市障害者自立支援協議会の就労ワーキングメンバー。そしてかぐやパンダ考案者の一人。

かぐやパンダの立役者

やさしいまちを目指して

かぐやパンダの扇子と笹



かぐやパンダグッズは、道の駅たけはらなどで販売しています。

「かぐやパンダが世代を越えて大人気ですね。もともとのようにして生まれたのですか？」
森木 かぐやパンダは、もともと「障害のある人もない人も安心して暮らせる竹原市に」というスローガンを啓発していくために作ったキャラクターなんです。子どもの頃から共に育ち、遊び、学ぶことが大切。そのために、子どもたちに親しみやすいパンダを使いました。
かぐやパンダの人気が出てきて、何か変わったことはありませんか？」
岩岡 作業所では、今までは下請けの仕事が多かったんですが、かぐやパンダが誕生してから、自分たちが主体となって商品を開発・製作することが多くなりました。
森木 そうそう。かぐやパンダグッズは、自分たちの作品なんだという意識で製作に臨めるようになってきましたよ。



作業所でのグッズ製作の様子



うになりましたよね。
岩岡 そうですね。自分が作った製品が店に並んでいるのを見ると、嬉しいみたいです。みなさん楽しく作業をされています。
森木 あと、特に中高生で、かぐやパンダの活動に参加したいという子が増えていますね。
—では、今後の課題などは？」
森木 うーん...着ぐるみが汚れたらどうしようとか(笑)。キャラクターの一人歩きではなく、かぐやパンダに込められた思いがきちんと伝わるような仕組みづくりをしていきたいです。
岩岡 そうですね。互いに支え合いながら、共に生きるという風土づくりの象徴になってくれれば、と思います。
—今後、かぐやパンダをどのように活かしていきたいですか？」
森木 障害福祉だけのものじゃなく、「誰にも優しいまちづくり」の象徴として、市民に浸透していったらいいですね。特に、子どもたちに馴染んでもらいたいです。
岩岡 私も、新たなグッズの開発などに積極的に取り組みたいです。仕事が増えて大変なこともあります。かぐやパンダがいろいろな思いを背負っているの、やりがいを感じます。

人のうごき

(住民基本台帳登録者数)

人口	28,924人
男	13,681人
女	15,243人
	12,888世帯
1年前	29,397人
5年前	30,855人

—10月1日現在—

ティータイム

秋まつりにスポーツ大会、文化祭など、秋は各地でイベントがいっぱいです。
 先日、久しぶりに行楽に出かけた、サイクリングに挑戦！さわやかな風や秋色、もちろん秋の味覚も...。たくさん秋を実感した清々しい一日でした。秋はいろいろな楽しみがありますね。

市政発展のためのご意見などをお寄せください
 郵便 〒725-8666 (住所不要) 竹原市企画政策課「市長への私の提案」係 FAX 22-0998 ※市ホームページ「市長の部屋」から電子メールでも送信できます。ご意見等は「市長の部屋」掲示板にて公表させていただく場合があります。